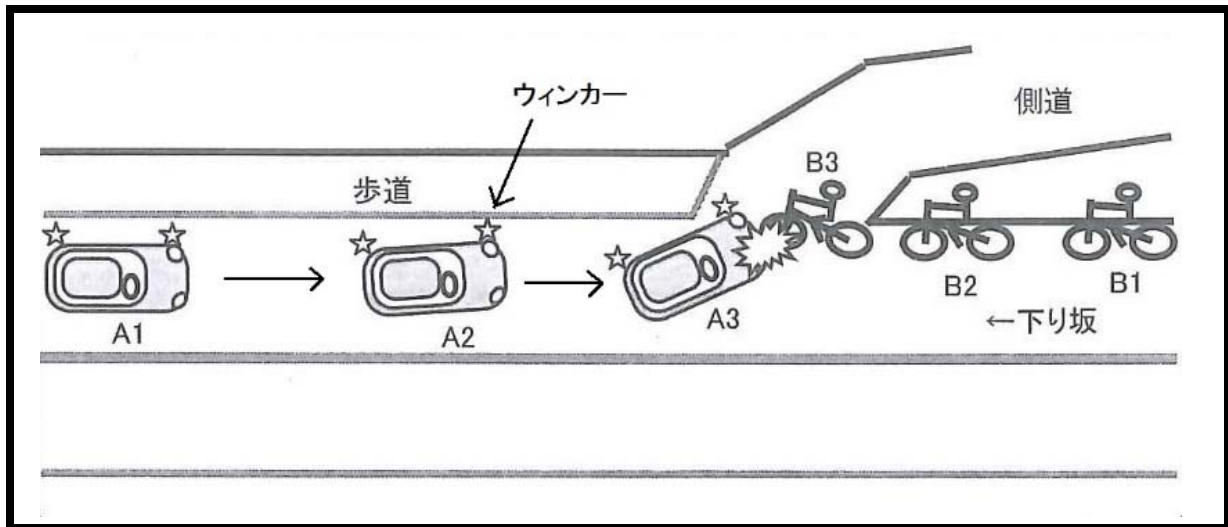


■事故の概況

自動車学校（全指連）参照



事故類型：正面衝突

発生日時：2月 午後6時30分頃 晴れ

当事者A：四輪車 40歳代 男性

当事者B：自転車 20歳代 女性

■ 事故の概要

Aは、毎日通る跨線橋横の側道に左折するため、時速約25kmに減速し、左折ウィンカーを出しました。左後方から自転車などが来ないことは確認しましたが、右側通行をしてくるB車がいることは予測できなかったこと、周囲が暗かったこと、B車が無灯火であったことなどにより、B車を見落としてしまいました。道路に沿って水銀灯が等間隔で設置されていましたが、Aが確認したとき、B車はたまたま水銀灯の真下から離れたところを走行していたのかもしれませんが、左折開始直後、前方約15mのところにB車が迫っていることに気がつき、急ブレーキをかけましたが、間に合わずに衝突してしまいました。

一方、Bは、跨線橋の勾配が急な下り坂になっている道路右端を無灯火で走行中、衝突現場付近は明るくてよく見えるからと、ライトを点灯する必要はないと思いました。B車からはA車は見えていましたが直進車だと思っていました。直後に左折ウィンカーが2回点滅すると同時に左折してきたので、右にハンドルを切って避けようとしたのですが、間に合わず衝突してしまいました。

■ 事故から学ぶ

Aは、もっと早めにウィンカーを出す必要がありました。ウィンカーやブレーキランプは、たとえ相手が少しくらい脇見していたとしても認識できる程度の時間を作動させましょう。行動を起こす前に3～4秒は必要です。

また、Bはライトを点灯すべきでした。ライトの点灯は自分から周囲がよく見えるようにするためではありますが、そのほかにも自分を相手から発見しやすくする効果もあります。

また、自転車は軽車両であり、道路左端を通行するのが定められた通行方向です。